

1. 件 名：日本原子力研究開発機構高速増殖原型炉もんじゅの緊急時活動レベルの見直し検討について
2. 日 時：令和2年6月5日 13:30～15:30
3. 場 所：原子力規制庁3階 室内会議卓
4. 出席者
原子力規制庁 緊急事案対策室
児玉企画調整官、宮地防災専門官、岡村係長
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 敦賀廃止措置実証本部
安全・品質保証室 グループリーダー 他5名（テレビ会議システムによる出席）
5. 要 旨
日本原子力研究開発機構から、高速増殖原型炉もんじゅの緊急時活動レベルの見直し検討について、前回の面談(5月29日)を踏まえ、以下の説明があった。
 - ・ SE51及びGE51について、もんじゅの状態を踏まえ、炉内の液位を監視するために必要な場所を整理
 - ・ 中央制御室、制御盤室、リレー室及び1次系余熱盤室で炉内の液位が監視可能原子力規制庁より、SE51及びGE51について、それぞれの場所で液位を把握可能な計器（液面計、温度計、流量計）が異なることから、防災業務計画に判断基準と場所を明記するように伝えた。
日本原子力研究開発機構から、引き続き検討するとのことだった。
6. その他
配付資料： 資料1 令和2年度 新型転換炉原型炉ふげん/高速増殖原型炉もんじゅ防災業務計画 修正箇所（日本原子力研究開発機構）